

第31回ふる里山田同郷の会総会

旧友とのひびととき



郷里をしのぶ

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深める「ふる里山田同郷の会総会」が6月18日、東京ガーデンパレス（文京区湯島）で行われました。ことしで31回目の開催となった同会には、174人が出席。はじめに総会が行われ、本年度の事業計画や収支予算などを審議しました。その後は「懇親交流の集い」。参加者らは旧友との再会に沸き、懐かしいひと時に花を咲かせていました。

ふる里会当日、総会に先立ち行われたのは「ふる里及び会からの報告」。本町からは、水産商工課武藤嘉宜課長が、昨年行われた行幸啓の際の町の様子と、各地区の復興状況を画像を使って説明しました。また、山田町地域コミュニティ形成アドバイザーの船戸義和さんからは、本町の新たなコミュニティ形成の進行状況などについて報告があり、参加者らは町の現状に理解を深めていました。

次に行われたのは、事務局からの「寿司キャラバン」についての報告。昨年度をもって、すべての仮設住宅へのお寿司のお振る舞いが終了し、村上進実行委員長はその成果を報告。参加者らはその活動に対し、盛大な拍手でねぎらいました。引き続き行われた総会では、

平成28年度の事業報告や本年度の活動方針などを審議。すべて原案のとおり承認されました。総会終了後の休憩時間には、会場内の物産販売コーナーに多くの人が詰めかけ、懐かしい地元の味を買い求めていました。

そして、いよいよ待ちに待った「懇親交流の集い」。吉川淑子町議会副議長の乾杯の音頭でスタートし、知人、友人との久々の再会に、あつという間に会場は熱気に包まれます。

ことしのふる里会では、来年開催される平昌冬季パラリンピック出場を目指す、本町出身でスキー選手の阿部友里香さんの激励会も行われ、阿部さんの「ぜひ韓国に来て、応援してください」とのあいさつに、会場では激励の拍手が沸き起こりました。



山田町の皆さんに レベルアップした姿を



本町出身スキー選手
(クロスカントリー／バイアスロン)

阿部 友里香 さん

ふる里会には、毎年のように参加させていただいています。色々な方に知ってもらえる機会となつているほか、温かい応援もいただけるので、とても力になります。ソチパラリンピックの時も皆さんから応援をいただきました。あれから4年。様々なトレーニングを重ね、あの時よりもさらにレベルアップしている姿を皆さんに見てもらいたいです。

▶ 上部写真①本町特産品の物産販売が行われました②町からの説明に聞き入る参加者③旧友との記念撮影▶ 下部写真④春蝶さんによる歌と踊り⑤阿部友里香さんへ激励の寄せ書きもできあがり⑥郷里に思いをはせ、「ふるさと」を合唱しました



阿部浩郎さん (61歳) [長崎出身]

今回が初参加です。高校卒業後に上京したため、きょうはどんな人に会えるかワクワク、ドキドキしながら来ました。知り合いにも会えて、来てよかったです。ふる里会にはまってしまいました。



矢藤栄子さん (64歳) [関口出身]

震災後、より古里の情報が知りたくて毎年参加しています。震災の犠牲は大きかったけれども、皆さんの頑張っている姿に力をいただき、全国からのご協力に人の絆を改めて感じています。



濱登鐵男さん (86歳) [田の浜出身]

ふる里山田同郷の会の発起人の一人として、毎年参加しています。もっと若い人にも参加して欲しいですね。また、自分の住む山田の歴史をもっと学んで、その素晴らしさを知ってほしいと思います。

アトラクションでは、本町の特産品が当たるくじ引きが行われ、景品が当たるときに大きな歓声が上がったり、昨年は1等ことしは特賞が当たるとつわものが現れたり、会場の熱気はさらに高まります。また、歌手で舞踊家の春蝶さんによる歌と踊りも、会に花を添えました。終わり際に「観光音頭」が流れると、自然と多くの参加者が踊り始め、その光景には、山田人の「ノリの良さ」が表れていました。

最後は恒例の「ふるさと」の大合唱で締め。年に一度、都会に作られる「山田町」は、惜しまれつつも一旦解散。一年後の再開を誓い合っていました。

